

かんじの気もちで

香川大学教育学部附属坂出小学校

二年 大ひら大よう

「なんだかいつもとちがうなあ。なくなつていたらどうしよう。」

ぼくは、ハラハラドキドキしてこう言いました。なぜなら、お気に入りのお場しよがなくなつていくかもしれないと思つたからです。

まい年、ぼくはなつ休みになると、お川けんととくしまけんのけんざかいにある、こと

なみ町の土き川の上りゆうに行き、あめじやがじをつかまえたり、川の生きものとおそんたりしています。その場しよは、せまくてあまりのこないところですが、なつのあつさをあすれて川の生きものたちとおれ合うことができる、ぼくのお気に入りのお場しよです。しかし、ことしは、いつもの場しよにちがづくといけしきがあつていたので。ぼくが、あつたふたしてると、お父さんが、「このあたりは雨がふつたら土がくずれてと

ても大へんだから、そう言うさかいかな
いように、いろりろエふうしているんだよ。
さかしてごらんよ。」
と言いました。

いろりろさがしてみると、山の土のひょう
めんをコンクリードでかためたり、ネットで
おおったりしていました。また、さぼうダム
と言って、ながれてきた木などをせきとめる
ダムもつくられていました。

そして、お気に入り場の場しよにとうちやく
しました。その場しよは、いつも通り、かあ
つていませんでした。しかし、ぼくの気もち
はかおりました。いままではなにも考えずに
川の土りゅうであるんでいたけれど、みんな
があん心してくらせるよう、この場しよもま
もられていることに気がいたからです。

これから、かんしよの気もちで川あそび
を楽しんでいこうと思います。